

1 協会事業

茨城県留学生親善大使任命式
理事長就任のご挨拶

2 Global View

茨城県国際交流協会 外国人相談センター
～相談体制を拡充しました～

4 交流の広場

大洗町とポーランド オトフォック市の歩み
ポーランドってどんな国？Young Eyes
Across Culture

6 地球だより

アメリカで日本語を教える

県だより

大井川知事が、フランス・エソンヌ県を訪問！

7 For You

お知らせ

8 Said&Did



茨城県留学生親善大使任命式を行いました



茨城県国際交流協会では、国際交流活動に意欲のある県内の留学生を「茨城県留学生親善大使」として任命し、「ワールドキャラバン国際理解教育講師等派遣事業」を中心に、国際交流推進や茨城の魅力PRなどで積極的に参加していただいています。今年度は6月29日（土）に任命式を行い、12の国と地域から留学生51名を新たに任命しました。任命された留学生親善大使は「日本のメディアが取り上げる情報だけでなく、母国のことについて幅広く知ってほしい」、「高校教師の資格を持っているので、日本と母国の教育にどのような違いがあるかを知りたい」、「国際交流を通じて、互いを理解し、友情を深めていきたい」などとそれぞれ夢を語ってくれました。皆さん、児童・生徒や地域の方々と直接交流できる日を楽しみにしていました。



任命証の授与

学校教育や生涯学習の場で外国の方と楽しく交流したり、身近に国際理解を深めてみませんか。派遣先を募集しておりますので、当協会までお気軽にお問合せください。



留学生親善大使任命式

留学生親善大使や、海外文化、料理などを紹介できる各国事情紹介講師の情報は、当協会ホームページの「多文化共生サポーターバンク」で検索できます。（https://www.ia-ibaraki.or.jp/s_bank/index.htm）

多文化共生サポーターバンク
ホームページQRコード



理事長就任のご挨拶



理事長 鈴木 哲也

6月29日付けで、細谷茂治前理事長の後任として理事長に就任いたしました。

グローバル化の進展に伴い、本県にお住まいの外国人の方々は、昨年末には6万6千人を超え、東京オリンピック・パラリンピックの開催を控えて、本県を訪れる外国人観光客も増加しております。

この4月の改正入管難民法施行により、

外国人はさらに増える見込みでありますので、当協会といたしましても、外国人の受け入れ態勢整備や生活支援等に資するため、外国人相談センターを拡充するとともに、同じ建物の1階に開設された「茨城県外国人材支援センター」との連携を図ってまいります。

県民の皆様方には、今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

GLOBAL VIEW

特集

茨城県国際交流協会 外国人相談センター ～相談体制を拡充しました～

国レベルで外国人材の受入れ促進に向けた取組みがスタートし、各地域では外国人住民との共生社会の実現に向けた環境整備が求められています。今回は県内の外国人の現状と、外国人の皆さんから生活全般の相談を受け付けている当協会の外国人相談についてご紹介します。

1 県内の在留外国人の状況

在留外国人数 66,321人（前年同月比4.5%（2,830人）増）
 国（地域）数 146（無国籍を除く）
 県人口に占める在留外国人の割合 2.3%

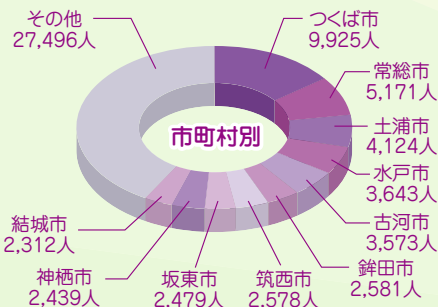


図1

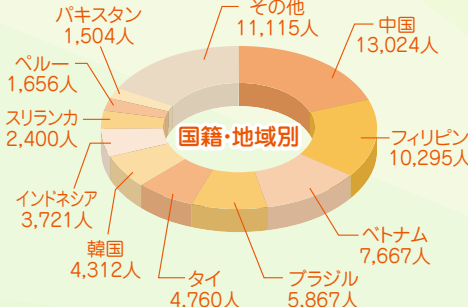


図2

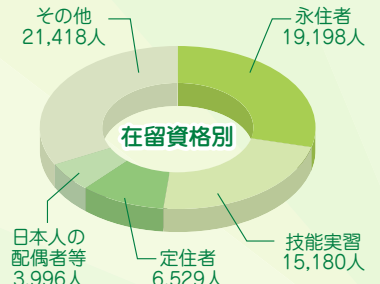


図3

（法務省「在留外国人統計」/平成30年12月末現在のデータをもとに作成 県人口平成31年1月1日現在2,881,020人（茨城県のデータ）より算出）

茨城県には昨年12月末現在で6万6千人を超える在留外国人があり、その数は全国の都道府県で10位となっています。県内でもつくば市、常総市、土浦市など、県南・県西地域に多く滞在しています（図1）。国籍別では中国、フィリピン、ベトナム、ブラジルで全体の半数を超えます（図2）。

在留資格別では、永住者及び定住者などの割合が高く滞在が中長期化していること、技能実習の割合が全体の2割を超え高いことが特徴となっています（図3）。

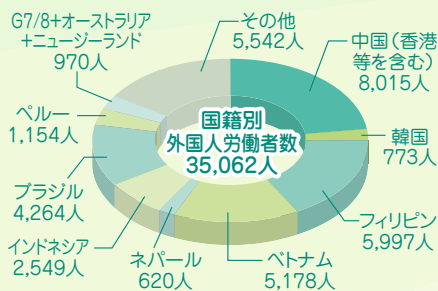


図4

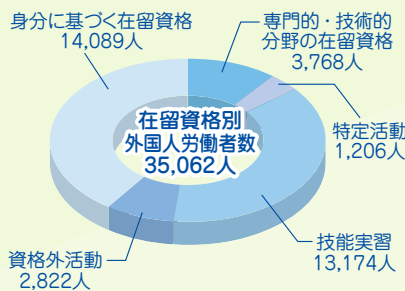


図5

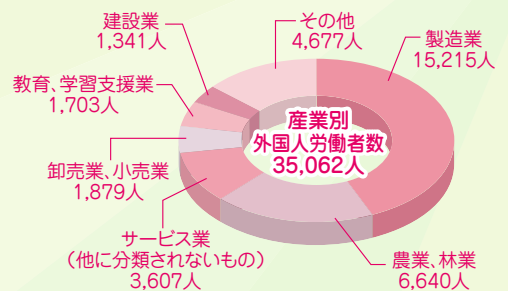


図6

（茨城労働局 茨城県の外国人雇用届出状況（平成30年10月末現在）から作成）


外国人材の受入れに関しては、県内の外国人労働者数は年々増加し、3万5千人を超え全国で9位となっています。国籍別では中国が多く、次いでフィリピン、ベトナム、ブラジル、インドネシアなどの順になっています（図4）。前年同期と比べると、新たにインドネシアが上位に入りました。また、伸び率では中国（4.4%）、ブラジル（1.5%）に比べ、フィリピン（14.0%）、ベトナム（33.9%）が高くなりました。在留資格別では、身分に基づく資格（永住者、定住者など）及び技能実習がそれぞれ約4割ずつを占めています（図5）。なお、技能実習13,174人は全国5位です。産業別では製造業、農業、林業で6割を超えます（図6）。

2 当協会の外国人相談について

新たな相談体制

当協会の外国人相談センターは、今年度、英語担当の常勤1名、ベトナム語2名、インドネシア語2名の相談員を新規に採用し、今後のニーズを想定した体制の拡充を行いました。日本語を含めた10言語での相談に対応していますが、ベトナム語を週1日から週3日に、インドネシア語を週半日から週1日半に相談機会を増やすことで、利便性の向上に努めました。その他言語で相談があった際には、相談員が翻訳機器を使うなどして対応いたします。また、弁護士による無料法律相談を月に2回実施しています。このほか、外国人のための一日無料弁護士相談（出張相談）を今年度県内2か所で開催予定です。第1回は土浦市で9月1日（日）に行いました。次回は筑西市で11月17日（日）に開催予定です。

外国人相談センターの相談曜日一覧

月	火	水	木	金
日本語 英語 その他				
ベトナム語（新） 中国語 13:30～17:00	韓国語 スペイン語 ベトナム語 インドネシア語 13:30～17:00 （曜日変更）	タイ語 中国語 ベトナム語（新）	ポルトガル語 タガログ語 インドネシア語（新）	タイ語 

※その他の言語については、相談員が翻訳機器等を活用するなどして対応します。

弁護士による無料法律相談（月2回、相談無料）

場所 当協会相談室

備考 予約制で事前に申込みが必要です。まずは外国人相談センターにご相談ください。

外国人のための一日無料弁護士相談 IN 筑西

日時 11月17日(日) 10:00～15:00（14:30受付終了）

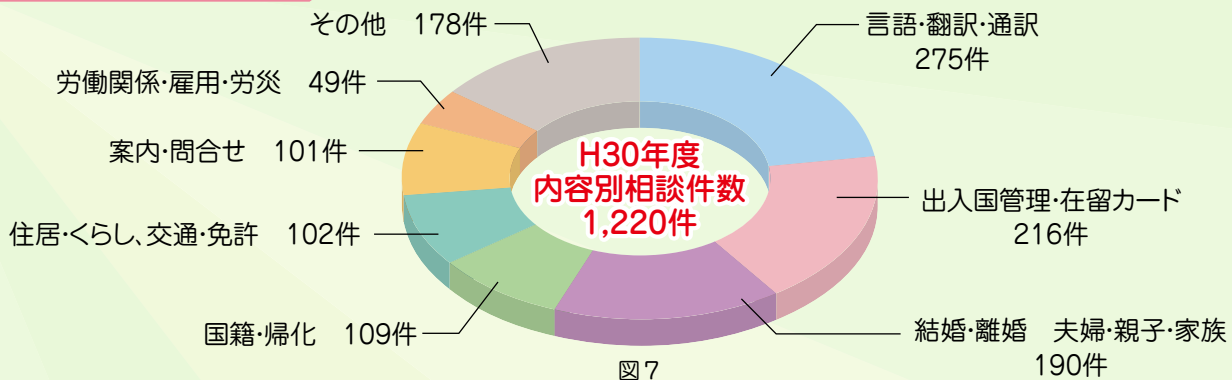
場所 しもだて地域交流センター・アルテリオ2階（筑西市丙372）

相談できること ビザ、仕事、結婚、税金、保険、生活全般について【弁護士と通訳つきで話せます。秘密は守ります。】

相談できる言語 日本語・英語・中国語・タイ語・タガログ語・ポルトガル語・韓国語・スペイン語・インドネシア語・ベトナム語



相談の傾向について



昨年（H30年）度は年間1,220件の相談が寄せられました（図7）。「言語・翻訳・通訳」や在留資格等に関する相談の割合が高いですが、「結婚・離婚 夫婦・親子・家族」、「住居・暮らし、交通・免許」などの割合も高くなっており、日常生活に密着した問題が外国人の皆さんを悩ませているようです。

相談者自身に関する内容のほか、親の事情で来日した子どもについて、年老いた人の介護関係などもあります。人間関係やトラブルが複雑に入り組んだ相談が比較的多くなっています。10年以上のキャリアを持つ相談員が複数ありますが、スキルアップや外国人を取り巻く社会情勢理解等のため、月1回程度相談員が一堂に集まって研修を行っています。必要に応じて外部講師を招き、法改正のポイントや消費生活トラブルについてなど、専門的内容や最新知識の習得なども行っています。

些細なことや母国語で話を聞いてほしいということでも構わないので、問題が大きくなる前に早めに気軽に相談してください。

（公財）茨城県国際交流協会 外国人相談センター

相談専用電話：029-244-3811 受付時間：平日8:30～17:00（正午～13:00、祝祭日は休み）

言語 日本語・英語・中国語・ポルトガル語・タイ語・タガログ語・スペイン語・韓国語・インドネシア語・ベトナム語 ほか

方法 電話または面接（相談料無料（電話代はご負担ください）、秘密厳守）

大洗町とポーランド オトフォツク市の歩み

大洗町役場 町長公室 関根 孝矩

この度、大洗町の新たな国際交流の歩みとして、5月22日にポーランド共和国オトフォツク市と友好都市協定を締結いたしました。ここでは、協定締結に至る経緯や今後の交流事業についてご紹介いたします。

大洗町にある日本原子力機構と技術協力を既に結んでいた、オトフォツク市にあるポーランド国立原子力研究センターの方々も昨年8月に大洗町を表敬訪問した際に、自治体同士の交流の提案があったことがきっかけです。その後今年1月に小谷大洗町長をはじめとする訪問団がオトフォツク市を表敬訪問し、友好都市協定や交流事業について協議を行い、締結に至りました。

交流事業の第一弾として、まず8月の夏休みを利用して、町の中学生をオトフォツク市に派遣しました。約1週間の派遣でしたが、教育に熱心なオトフォツク市からの提案もあり、全日程がホームステイとなりました。中学生達には英語力を高めるとともに、海外での生活を肌で感じる大変良い機会となったことと

思います。来年にはオトフォツク市の子もたちを大洗町で受け入れる予定で、海をはじめとした大洗の自然環境や日本文化を体感してもらいます。大洗町の子もたちがこうした事業を通して国際感覚や広い視野を持ち、将来へ大きく羽ばたいていってくれることを願っています。

将来的には、人材育成のみならず、民間レベルでの産業交流等、活発な交流へと発展させていく予定で、オトフォツク市とともに国際化への歩みを進めていきます。



ポーランドってどんな国?



山口 イボナ
(ポーランド出身、日本在住歴20年)

ポーランドと日本の国交成立は今からちょうど100年前。この節目の年に、大洗町とオトフォツク市が友好都市協定を結んだことをとても嬉しく思います。これをきっかけに、お互いの国の事をもっと知る機会が増えると期待していますし、ぜひ茨城の皆さんにもポーランドに行ってみてほしいです。特におすすめの場所は、歴史的な建物と現代の町並みが並ぶ首都ワルシャワ、町の広場が中世から残っているものとしてはヨーロッパ最大のクラコフ、世界最古の岩塩坑があるヴィエリチカです。



ポーランドは食文化も豊かです。優しい味の料理が多く、一番有名なのはやっぱりピエロギですね。ちょっと中国の水餃子に似ていますが、チーズや果物も入れます。他には特にスープの種類が豊富で、日本では食べられないジュレック(ライ麦を発酵させた液体から作るちょっと酸味のあるスープ)やキュウリ、サワークラウトのスープなど、覚えきれないほどです。



今回の協定締結には通訳として同行しましたが、いろいろなお話を聞く中でポーランドは親日国だと改めて感じました。距離は遠いですが、気持ちに近い両国には、国境を越えたフレンドシップが出来ると思います。日本からの直行便もありますので、ぜひ行ってほしいです。

高橋 静 (JICA茨城デスク)

Dzień dobry!茨城県国際交流協会内JICA茨城デスクに着任した高橋静です。私は、JICA青年海外協力隊として2002年4月から2年2ヶ月、東欧ポーランドに剣道隊員として派遣されました。派遣が決まった当初は、恥ずかしながら「アウシュピッツ強制収容所がある国」程度の知識しかなく、また世界でも難解言語といわれているポーランド語の学習はゼロからのスタートで、必死に勉強した日々が懐かしいです。

現地ではポーランド剣道連盟に配属され、国内剣道クラブへの巡回指導、女子ナショナルチームのコーチとして強化練習や国際大会の引率を行いました。本来ポーランドは親日国家として知られているものの、当時は日本人がいるとは思われず、街中ではアジア人として差別を受けることも多く、そんな心の傷を癒してくれたのは、剣道クラブの仲間やホストファミリーでした。今や、ポーランドは私にとって大切な第二の故郷です。その故郷と現在住んでいる大洗町が友好都市協定



を結ぶことになり、交流事業が開始されると聞いて本当に嬉しいです。ポーランドのことを知りたくなったら、ぜひ茨城デスクにお越しください!



交流の

今でも蘇る大切な思い出 ～上海スタディツアーに参加して～

茨城大学人間環境教育課程健康コース
4年 福島 清香

もともと旅行が好きな私。この上海スタディツアーは、上海について知りたいと軽い気持ちで参加した。しかし、上海スタディツアーを終えると、濃密なスケジュール、企業訪問、華東師範大学生との会話の中での学び、美味しい料理！本当に充実したツアーで、最高の思い出となった。旅行では絶対にできない思い出がたくさんできた。

上海スタディツアーでは、JETRO 上海、茨城県上海事務所、春秋航空本社、上海ヤクル

トなどの数多くの企業訪問をした。また、上海豊田紡織廠記念館など、一般の方には見せていない、歴史のある建物の見学もした。そして、華東師範大学学生との市内視察では、観光地と一緒に巡り、上海や日本のことについてたくさん語り合った。

特に思い出に残っていることは、やはり華東師範大学の学生との交流である。中国の流行りの歌、食べ物、デリバリーサービス、歴史、政治の話までたくさん話し合った。日本にはない考え方などを知り、視野が広がったと思う。また、東京を超えるキラキラとした市街の夜景、バスの中から見える上海ならではの景色、異国を思わせる建物など、眠気も吹き飛ばすような景色も印象的であった。また、私はこの上海スタディツアーに1人で参加した。ツアーを通してたくさんの友達ができ、夜なども楽しい時間を過ごした。そしてその友達とは今でも一緒に遊びに出かける友達となっている。価値観の合う友達に出会えることも魅力の1つであると思う。

スタディツアーに参加することで、上海のことを知れて上海を好きになった。



国際都市上海の夜景



豫園にて



の広場

ACROSS CULTURE

ここが違うって、おもしろい!



ファイ シーディ (セネガル共和国)

●セネガルってどんな国?

セネガルはアフリカ大陸のいちばん西、サハラ砂漠の下に位置し、一年中とても暑い国です。高温多湿の日本の暑さとは違い、日差しは強いけれど乾燥しているので日陰で暑さをしのぎやすい面もあります。日本と同じ北半球にあるので、12月から1月にかけては少し涼しくなります。

公用語はフランス語です。ウォロフ族、セレール族、プル族などさまざまな民族があり、民族ごとに言葉があります。外国人でも民族の言葉で挨拶をするとすぐに仲良くなれる、そんな明るくおもてなし精神にあふれた国民性です。

●日本へ来たきっかけは?

日本人の妻との結婚をきっかけに2015年春に来日し、以降つくばに住んでいます。日本は緑が多く、つくばみらい市にある妻の実家ではお米を作っているので、田植えや稲刈りの時期には手伝いに行きます。日本のお米は特においしいです。

●お仕事について教えてください

母国ではセネガル伝統の「サバル」という太鼓の演奏活動をしていました。日本に来てからもイベントや小学校

などでサバルやジャンベなどアフリカ太鼓の演奏や太鼓教室を行っています。また、他にも仕事をしていますが、日本語をうまく話せないと日本で仕事を見つけることがとても難しく大変なこともあります。

●将来の目標は?

サバルやジャンベなどアフリカ太鼓の演奏活動や太鼓教室をもっとたくさん行なっていきたいです。いずれセネガル料理のレストランを開き、日本人も外国人も子供からお年寄りまでいっしょに楽しめる場所にしたいと思っています。



西アフリカで有名な太鼓ジャンベ



結婚披露宴に招待されセネガル伝統太鼓サバルを演奏



地球だより

アメリカで日本語を教える

アラバマ大学バーミングハム校 高宮 優実

中学時代に、埼玉県から茨城県南に移り住みました。大学卒業後は、留学生を対象に日本語を教えていましたが、2002年よりアメリカに移り、現在に至ります。アメリカでは、はじめに、中西部のウィスコンシン州とインディアナ州にある大学院で日本語教育や応用言語学について学びました。その後、東部のペンシルバニア州にある大学に就職し、現在は南部アラバマ州バーミングハムにある州立大学にて日本語を教えています。アメリカでは、アニメやマンガ、ゲーム、武道等がきっかけで日本に興味を持つ若者が多いのですが、私の勤める大学でも、授業で日本語を学ぶだけでなく、日本に留学したり、英語教師として就職するなどして、実際に日本を訪れる人も多数います。また、バーミングハム市は茨城県の日立市と姉妹都市関係にあり、姉妹都市のプログラムを通じて、市民レベルでの相互交流も密接に行われています。




Faculty-led Program
(大学の海外研修プログラム)
で日光東照宮を訪れた
学生たち

私は、大学で日本語を教える傍ら、パーミングハムにある日本人子ども会や日本語補習校でも、幼児から中学生までを対象に国語を教えています。海外に住んで思うことは、ことばは文化と密接に関わっており、さらに文化はそれぞれの人アイデンティティと非常に強く関係しているということです。英語・日本語の両言語を同時に学ぶ日本人の子どもたちも、第二言語として日本語を習う大学生たちも、ことばを学ぶことによって、その言語をまわりの人とのコミュニケーションのツールとして使い、また、自らの思考を深めることができるようになり、日々、新しいアイデンティティを獲得していくことに繋がります。アメリカ南部は、他の地域と比較すると日本語教育がそれほど盛んではなく、また、生涯地元を離れず南部で過ごす人が多いのですが、日本語を学ぶことがきっかけで、グローバルな視点を身につけ、将来、日本とアメリカの橋渡しとなれるような人材の育成に携わっていかれたらと思っています。



大学 (UAB) で日本語を学ぶ学生を招いての茶会 (バーミングハム市)

大井川知事が、 フランス・エソンヌ県を訪問！

県だより



茨城県は、昨年10月にフランス・エソンヌ県との間で、19年ぶりに交流を再開しました。

今年7月には、大井川知事がエソンヌ県を訪問し、「両県間の交流推進計画」及び「県営シャマランド園と偕楽園・弘道館との間における連携協定」を締結しました。

「交流推進計画」には、芸術・文化的交流の促進や、観光資源や特産物などの相互PR、両県の一層の発展に向け連携・協力することなどを盛り込んでおり、その第1弾として、9月に本県の高校生を派遣し、芸術・文化活動を通じた交流を行いました。

また、「連携協定」は、偕楽園・弘道館のように、エソンヌ県にもシャマランド園という、歴史的価値の高い公園があることから、両園が連携して、更なる魅力向上を図っていこうとするものです。

現地では、パリ・サクレー大学を訪問し、企業関係者等に対し、大井川知事からプレゼンテーションを実施したほか、芸術家の藤田嗣治が夫婦で晩年を過ごしたアトリエを訪問しました。藤田嗣治の妻であった君代さんは、本県出身であることから、今後はそうしたつながりを生かした芸術・文化交流を進めていきたいと考えています。



アトリエ・フジタを訪問

また、両県はともに首都近郊に位置し、農業と工業がバランスよく発展しているとともに、サクレー地区では、筑波研究学園都市と同様に、大学や研究施設が集積するなど、多くの共通点があります。

19年ぶりの交流が始まったばかりではありますが、こうした共通点を生かしながら、今後ますます交流を深め、しっかりと関係を構築していきたいと思っています。



記念品を交換する大井川知事 (左) とデュロヴル議長 (中央)



パリ・サクレー大学での大井川知事のプレゼンテーション

(茨城県県民生活環境部国際交流課 係長 小林 典子)



第29回外国人による日本語スピーチコンテスト発表者を募集しています！

令和2年2月8日（土）13:00～16:30、ザ・ヒロサワ・シティ会館小ホールにて開催される「第29回外国人による日本語スピーチコンテスト」の外国人発表者を募集しています。県内で生活している外国人の皆さんが、日頃考えていることや、日本・茨城の印象、母国の話など国際理解を深めるテーマについて発表で

きる絶好のチャンスです。出場者全員に豪華賞品を用意しております。たくさんの方々のご応募をお待ちしております。（応募方法や締切など詳細は10月以降に協会ホームページに掲載予定です）
どなたでもご自由に参観できますので、多くの皆様のご来場をお待ちしております。（入場無料）

賛助会員を募集しています！

当協会では、茨城県に在住する外国人の皆様が安心して生活できるよう、多言語による相談事業や情報提供などを実施し、外国人の皆様にも住みよい地域づくりに努めています。また、より多くの県民の皆様が外国の方々と交流し相互理解を深める機会を提供するために、留学生や在住外国人の方々、交流団体の皆様と連携し、様々な交流事業も展開しています。

皆様からのご支援のもとに、さらに充実した活動を続けて参りたいと存じますので、賛助会員へご加入いただき、お力添えください。

会員になると、機関紙「ふれあい茨城」の送付、各種イベント等情報の提供、協会施設の優先利用、提携旅行社の割引などの特典があります。

また、賛助会員は、公益法人への寄付として申告により所得税や法人税の優遇措置の適用を受けることができます。

皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

賛助会費	団体会員	1口 10,000円/年
	個人会員	1口 3,000円/年

*賛助会特典、税金の優遇措置の詳細については、当協会HPをご覧ください。



●令和元年度 団体賛助会員（令和元年8月末現在）※敬称略

- | | | |
|----------------------------|------------------|--------------------------|
| 石岡商工会議所 | 鹿島埠頭株式会社 | 日本原子力発電株式会社 東海事業本部 地域共生部 |
| 伊奈工業株式会社 | 鹿島臨海通運株式会社 | 日本語学校つくばスマイル |
| 「茨城アジア教育基金」を支える会 | 鹿島臨海鉄道株式会社 | 日本製鉄株式会社 茨城支店 |
| いばらき印刷株式会社 | 神栖市国際交流協会 | 日本労働組合総連合会 茨城県連合会 |
| 茨城県火災共済協同組合 | 韓国語上級講座 | ネパール子ども奨学支援会 |
| 一般社団法人 茨城県医師会 | 株式会社 関電工 茨城支店 | ハングル初級教室 |
| 公益財団法人 茨城県開発公社 | 北茨城国際交流会 | ハン サラン |
| 茨城県火災共済協同組合 | 古河市国際交流協会 | 常陸大宮市国際交流協会 |
| 一般財団法人 茨城県環境保全事業団 | 国際ソロプチミストつくば | 日立商工会議所 |
| 茨城県行政書士会 | コスモエコー | 株式会社 ひたちなかテクノセンター |
| 一般社団法人 茨城県経営者協会 | コトブキ印刷株式会社 | ピバ エル エスパニョール |
| 一般財団法人 茨城県建設技術管理センター | JA茨城県中央会 | 広沢商事株式会社 |
| 一般財団法人 茨城県建設技術公社 | 株式会社JTB | ふじの会 |
| 茨城県市長会 | 下館商工会議所 | フレンドリーあんず |
| 社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会 | 株式会社 常陽銀行 | フレンドリージャパンワールド |
| 茨城県商工会議所連合会 | 常陽ビジネスサービス株式会社 | 株式会社 ホテルグランド東雲 |
| 茨城県商工会連合会 | 常陽保険サービス株式会社 | 水戸内原国際交流ふれあいの会 |
| 茨城県女性のつばさ連絡会 | 昭和建設株式会社 | 水戸商工会議所 |
| 茨城県信用組合 | 株式会社 セイキョウ | 水戸信用金庫 |
| 茨城県信用保証協会 | 関影商事株式会社 | 水戸ユネスコ協会 |
| 茨城県青年海外協力隊を育てる会 | センター印刷株式会社 | メサフレンドシップ |
| 茨城県世界青年コミュニケーションクラブ (WYCC) | 株式会社 高野高速印刷 | 株式会社 めぶきリース |
| 茨城県中小企業団体中央会 | 筑西市国際友好協会 | 特定非営利活動法人 豊かな大地 |
| 茨城県町村会 | チョウ サラン | ラプノール |
| 茨城県日中友好協会 | 株式会社 筑波銀行 | ワタヒキ印刷株式会社 |
| 株式会社 茨城ポートオーソリティ | 株式会社 つくば研究支援センター | 他1社 計82団体 |
| 鹿嶋国際交流JCサークル | 電機連合茨城地方協議会 | 皆様のご支援とご協力により感謝申し上げます。 |
| 鹿嶋国際交流さびあ | 那珂市国際交流協会 | |
| 鹿嶋市開発株式会社 | | |

新職員紹介



鹿志村 浩行

4月に県から事務局長としてまいりました。どうぞよろしくお願いいたします。

私はこれまで、観光振興や環境対策などに従事してきましたが、外国人との接点は決して多くありませんでした。その一方で、自宅は農業が盛んな地域にあるため、近所で外国人を見かけることはと

ても多いのです。

現在は、協会で多言語に囲まれて仕事をさせてもらっていますので、少しでも自分自身をグローバル化できればと思っています。

今後とも、国の方針や支援策を注視しつつも、市町村及び関係団体とも連携を図りながら、外国人に選ばれる茨城を目指し、多文化共生社会の実現に取り組んでまいります。



竹野 友子

4月から総務課で勤務しております竹野と申します。私はこれまで主に製造業でお客様サポートや貿易事務に従事していました。海外の取引先やお客様とメール等でやりとりをすることはありましたが、県内に住む留学生や外国の方々と触れ合う機会はほとんどなかったため、当協会の事業を通して、間接的にでも国際交流に参加できることを楽しみにしています。よろしくお願いいたします。



中込 花恵

4月より交流推進課にて勤務しております中込（なかごめ）と申します。ここ最近ではカナダ、ヨーロッパ、アフリカなどを転々としていましたが、帰国後も協会が国際交流に携わることができて嬉しく思います。県民のみなさんが世界に触れること、外国人の皆さんが日本と茨城をより好きになること、少しでもそのお役に立てればと思います。私も茨城に住むのは初めてなので、たくさん魅力を発見していきたいです。どうぞよろしくお願いいたします。



高橋 静

4月よりJICA茨城デスクとして、県国際交流協会内で勤務させて頂いております、高橋です。もとは、秋田出身ですが、これまで、仙台、ポーランド、ドミニカ共和国、エクアドル、そして、直近は長く東京に住んでおりましたが、この度、人生の旅の途中で、茨城に移住することになりました。現在は、茨城県を発信地とする国際協力を推進すべく、県民の皆さんに広くJICA事業をご案内致しております。国際協力にご興味ある方、ぜひ茨城デスクにお立ち寄りください！

ネットワーク会議を開催しました

7月19日(金)、ザ・ヒロサワ・シティ会館集会室において、県内の市町村、市町村国際交流協会、民間国際交流・協力団体を対象に、研修、相互連携、及び情報交換を目的とした令和元年度国際交流・協力ネットワーク会議を開催し、124名の方にご参加いただきました。

午前の全体会では、サンパウロ大学法学部博士教授、ブラジル国弁護士の二宮正人氏に「多文化共生社会としてのブラジルー日本との比較について」と題し、4月の入管法改正に伴う外国人の受け入れ拡大について、その先進国であるブラジルの移民政策と日本とのかわり、日本における今後の課題について基調講演をいただきました。

午後は、3つの分科会に分かれて各テーマについて事例発表、講義を行いました。第1分科会は、茨城県外国人材支援センターの統括マネージャーより、外国人材雇用に伴って、「外国人材を受け入れる体制の必要性」などお話しいただき、外国人と共生していくための課題についてワークショップを行いました。第2分科会では、ふるさと納税や先進英語教育に力を入れた多文化共生のまちづくり、フィリピンやハワイ、アルゼンチンと姉妹都市交流を活発に行っている境町の取組みについてお話し

いただき、その後意見交換を行いました。第3分科会では、昨年4月に発足した「つくばみらい市 日本語ひろば」の発足までの経緯や現在の取組みに対する課題を発表し、その後グループになって課題に対する意見交換を行いました。

この会議が、参加者の皆さんの今後の活動の進展やネットワークづくりの良い機会となれば幸いです。



第1回クエスト茨城留学生研修を実施しました

茨城県国際交流協会では、留学生が茨城県への理解を深め、愛着を持って留学生活を送ってもらうことを目的として、留学生親善大使を対象とした県内の公共施設や企業等を訪問するバスツアーを毎年実施しています。

7月6日(土)、今年度1回目のクエスト茨城留学生研修を実施し、34名の留学生親善大使が参加しました。今回は市商工会議所の協力で県内食品製造業本社訪問とアクアワールド茨城県大洗水族館見学を実施しました。

ひたちなか市のコーヒー焙煎施設見学では、豆の管理や産地について学びました。留学生からは、「お店の裏側まで見ることができてとても勉強になった」、「日本でコーヒーについて説明を聞いたのは初めてで面白かった」等の感想がありました。

アクアワールド茨城県大洗水族館では、バックヤードツアーやイルカショーを満喫しました。留学生たちは今まで見たことがない魚と動物を見て、海の世界についてたくさん学ぶことができました。

バスツアーを通して多くのことを吸収し、新しい仲間と楽しく過ごす実りのある一日となりました。



令和元年度『国際理解教育研修会』を開催しました

8月21日(水)、国際理解の概要やワークショップの手法等について理解を深めていただくことを目的として、ザ・ヒロサワ・シティ会館分館にて国際理解教育研修会を開催しました。参加対象者は県内の小中学校・義務教育学校・高等学校・特別支援学校の教職員、市町村協会、民間国際交流団体、当協会登録ファシリテーターで、当日は44名の方が参加しました。

今回は、カードゲームを通して「SDGs」について考える内容で、神奈川県高等学校国際教育研究協議会事務局長の木村光宏氏を講師としてお招きしました。まず「SDGs」について、JICA茨城デスク国際協力推進員の高橋静氏より簡単な説明を頂いた後、木村氏の進行で「SDGsについて考えよう!~楽しみながら本質を理解するゲームの紹介~」と題したワークショップを体験していただきました。

参加者からは、「多くの企業、団体がSDGs達成のために様々な取り組みをしていることが分かった」「楽しくSDGsの取組を知ることができた」「ステージの変化が国家間の連携・協力が深まっていくこととリンクしていて面白かった」等の感想が聞かれました。

参加者の皆様には是非今回学んだ手法を教育現場や各団体に持ち帰り、国際理解教育を実践していただきたいと存じます。

